



患者最優先の医療構造改革を

2003年度 PhRMA会長 ロバート・エスナー  
ワイス社会長・社長兼CEO

ご来賓の皆様、本日はお忙しいところようこそお越しくださいました。

この時期にPhRMA会長として来日できたことを大変光栄に思います。それは革新的新薬を開発する製薬業界にとって、今ほどエキサイティングな時はないからです。患者さん優先を掲げ、日夜奮闘している各製薬企業にとりましても、行政に携わる皆さまにとりましても、今は大変チャレンジングな時だと思えます。

PhRMAでは毎年、会長が新任された後にPhRMA Daysを開催し、その期間中歴代会長が、日本が直面するヘルスケア問題とその解決の方法を日本の皆さまと意見交換を行ってまいりました。今年には私が PhRMA会長として来日し、このように多くの皆さまとお会いする機会を得ましたことを大変嬉しく思っております。

本日、ここにお集まりの皆さまの多くはすでにご承知のことと存じますが、PhRMAは日本の将来のヘルスケア政策について、「患者さん最優先」という提案を行い、広く議論を進めています。「患者さん最優先」というテーマは、PhRMAの基本理念であり、長期展望に基づいた総合的な構造改革を促す基本路線です。

短期的かつ断片的なアプローチでは、既存の非効率性を排除するという効果はあっても、将来に向けて持続可能なプログラムとはなり得ません。

PhRMAが掲げるテーマ、「患者さん最優先」は、ヘルスケアシステムの総合的な構造改革を促すもので、これには以下のようなコア・メッセージが含まれています。

### ヘルスケアは投資の対象であり、短期的節約の対象ではない

ヘルスケアへの投資は、日本のサイエンス基盤を強化させます。これは、高齢化社会を迎える日本にとって非常に重要です。なぜならば、ヘルスケアへの投資は 高齢者が必要とする医療サービスを適切に提供していくための経済的リソースを提供し、雇用の増大を促し、また、すべての患者さんに医学の進歩から得られる 恩恵を提供することができるからです。

### 患者さんが得ようとする情報入手が容易になる

患者さんは、医療機関で受ける医療の質や自分の病気、そしてその治療法について、情報を入手し易くなります。その結果患者さんは、より適切な判断が可能となります。

### ライフ・サイエンス分野への投資を促す

ライフ・サイエンス分野への投資が増えると、より質の高いヘルスケアを生み出すとともに、経済を活性化させます。産官学の協力をさらに密にして、新薬の開発速度を早め、患者さんに必要な薬をより早く提供することができるようになります。

## 明確なルールのもと、イノベーションをより迅速に患者さんに届ける

新薬の審査期間は大幅に短縮されましたが、臨床試験やGCPのインフラは今まで以上に強化されるべきであります。欧米と比較すると、審査スピードがいかに不足しているか分かります。革新的新薬を開発する製薬会社をサポートし、日本をアジアの臨床試験の基地にする必要があります。

## 研究者や投資家が日本市場に魅力を感じる環境づくり イノベーションが報われる薬価と償還制度の確立

新薬開発には平均して8億ドルの投資と10年の開発期間が必要です。今後も研究開発を続けていくためには、イノベーションが報われることが大切です。PhRMAは発売後売り上げを大きく伸ばした医薬品に課せられる薬価再算定制度の廃止を求めています。少なくとも特許期間にある医薬品の薬価引下げを中止し、イノベーションを促進させる市場原理に基づくシステムに移行することを求めています。

PhRMAとイノベーション志向の日本の製薬会社は、日本の政策担当者やオピニオン・リーダーの方々と上記のようなコア・メッセージについて議論を続けています。

私は日本が財政的問題を抱えていることを知っていますが、日本が財政的理由により、医薬品のイノベーションを抑制するようなことがあれば、持続可能なヘルスケア・システムや患者さん最優先の医療システムを確立することができないでしょう。イノベーションに報いるシステムを作ることは、決して容易な政治的決断ではありません。しかし、私がお会いした多くの政策担当者の方々は、私どもの新しいアイデアに率直にかつ熱心に耳を傾けてくれました。私は日本の皆さまとお会いして、日本の将来に大変ポジティブな印象を抱きました。私共の会社ワイス社も日本市場に明るい未来展望を描いております。

今回の日本訪問をきっかけとして、私は日本の患者さんの未来に大変興味を抱き、「患者さん最優先」とするテーマをさらに深く追求していきたいという思いを強くしました。日本の患者さんの将来は画期的新薬の開発に向けて、研究開発を続ける製薬会社と、新薬の承認を担当する日本政府そして新薬を投与する医療機関との共同作業に委ねられています。私たちひとり一人がその将来を形作っているのです。そのことを私のメッセージとして、私の挨拶に代えさせて頂きたいと思っております。本日は、PhRMAのレセプションにご参加頂きまして誠に有り難うございました。